

令和3年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

令和4年4月30日現在

研究課題名	ロシア語の品詞体系における数詞の確立と定着	
申請者	氏名	所属機関・職
	鈴木 理奈	札幌医科大学・北海学園大学 非常勤講師

研究成果の概要

本研究では、歴史的文法書を辿りロシア語の品詞分類の変遷とともに、数詞の品詞化に至る過程の考察を行っている。

現代ロシア語の品詞体系において、数詞は独立した品詞に位置付けられているが、ロシア語文法の歴史を遡って見ると、数詞の概念は古くから存在が認められるものの、品詞としての数詞は他品詞に比べても後期の形成となっており、かつては現在の品詞分類とは異なるものであったことが確認できる。最初の本格的なロシア語文法書となる M.V. Ломоносов 著「Российская грамматика」(1755年)においては、数詞は独立した品詞として分類されておらず、それ以降の文法書でも数詞の持つ多様性により他品詞との関連考察が重ねられながら、漸く品詞としての数詞の確立に至ったことが本研究で明らかになった。

昨年度までは主に18世紀から19世紀半ば頃の文献を、今年度は主に19世紀半ばから後半頃の文献を元に、ロシア語の品詞体系における数詞の現れと同時並行的に混在する品詞分類の分析を行い、それら研究の成果は論文にまとめて執筆し学術論文誌にて発表した。

本研究は継続して19世紀後半以降の文献にさらに目を通し、数詞の品詞化が分類体系において定着する過程を考察していきたいと考えている。

共同利用研究においては、北大およびスラブ・ユーラシア研究センター所蔵の露文図書、共同研究室を利用させていただき感謝申し上げます。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

北海学園大学「人文論集」第71号 学術論文（北海学園大学 人文学部，2021年8月）

謝辞有

当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト（応募中の研究プロジェクトを含む）

該当なし

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。